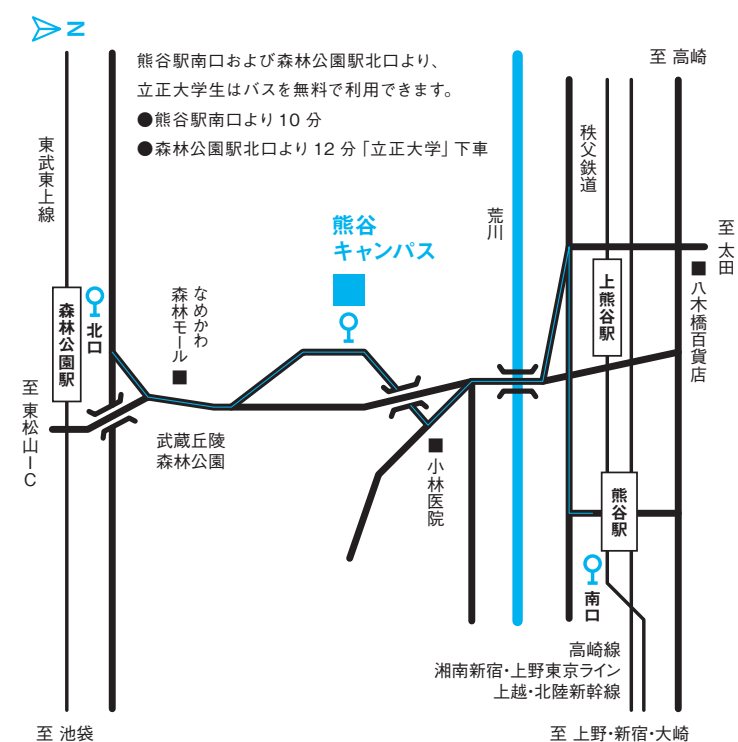
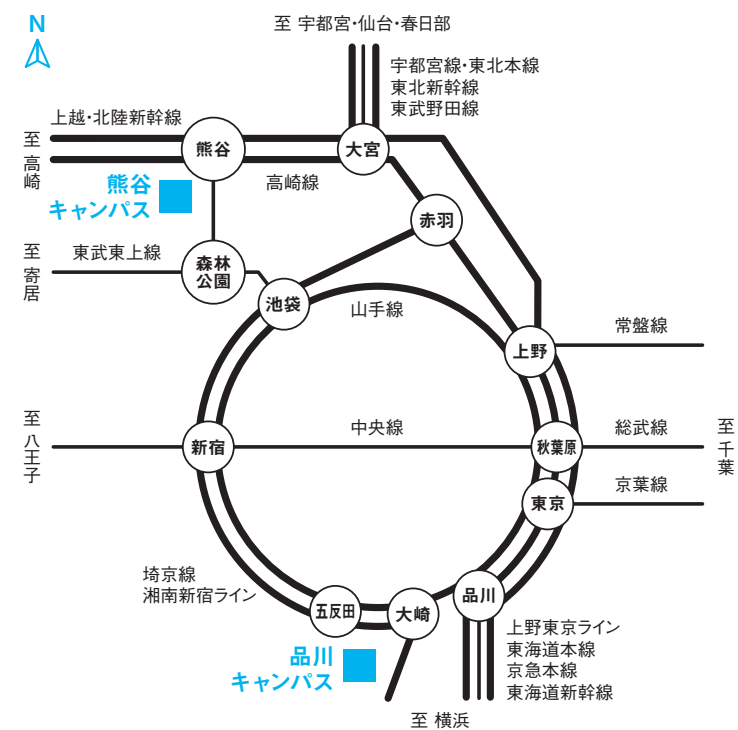


Website



〔学部特設サイト〕
<http://ris-geo.jp/admission/>



〔環境システム学科〕
<http://rissho-es.jp/>



〔地理学科〕
<http://rissho-map.jp/>



〔地球環境科学部 LINE 相談室〕
入試や大学生活についてなど、
何でもお気軽にご相談下さい。

※パンフレット内に掲載されている人物の学年や所属は取材時のものです。

地球環境科学部 2022

地球をケアして、
未来をつくる。



地球をケアする使命

CARELOGY



未来をつくる役割

SDGs

「CARELOGY（ケアロジー）」とは、「care」＋「logy」を組み合わせた造語で、立正大学の研究ビジョンです。人種、経済格差、環境等に関連するさまざまな問題について、人間と社会、人間と自然といった「関係」に着目し、修復（ケア）をめざす研究・アプローチです。地球環境科学部は、深い専門性と文理融合による広い視野をもって、人と地球の新たな関係の構築をめざし、持続可能な社会の実現に向け有為な人材育成に取り組んでいます。

〔 環境システム学科 〕



環境システム学科では「生物・地球コース」、「気象・水文コース」を設け、環境科学を体系的かつ多角的に学修します。生物・地学・気象・水文・情報の5領域からのアプローチで総合的な知識を身につけ、実践的な調査法を修得。こうした学びをととして、気候変動の影響、海洋・海洋資源の保全、陸域生態系の保護や森林保全と砂漠化の阻止といった、SDGsで重要な環境問題の解決について、実際に取り組み貢献できる人材を育成します。

〔 地理学科 〕



地理学の目標は、自然環境の負荷を軽減しながら限りある資源を活用し、貧困のない安全で公正な社会を構築することです。近年の多様な災害の頻発により、社会の構築に携わる誰もが適切な教育を受け、課題解決に取り組むことが急務となっています。地理学科では「人文地理学」「地図・GIS・測量」「自然地理学」の三つの柱から、地球上で起きていることを多角的に理解し、問題解決に向けて主体的に貢献できる人材を育成します。

What's SDGs?

SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは、2016年の国連サミットで採択された「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」のこと。2030年までの国際目標として、現在、以下の17のゴールに向けて世界各国で取り組みが進められています。



※パンフレット内に記載されているSDGsマークや四角内の数字は、掲載内容と特に関連の深いSDGs目標を表しています。

将来像から比較する地球環境科学部の学び

環境システム学科

P08 ▶

卒業後の将来像	必要な能力	その能力を養うための授業例
環境保全や自然保護に関わる仕事	環境に関する幅広い知識	- 環境気象学概論 - 環境水文学概論 - 環境生物学概論 - 地図環境学概論 - 環境情報学概論 等
自然環境の状況を正確に測定・把握し情報を取得する仕事	野外調査と室内分析を適切な方法で行える能力	- 環境調査の基礎および実習 - フィールドワーク - セミナーの基礎 - 環境化学実験 等
希少野生動植物の保護管理に携わる仕事	環境科学と関係が深い生態学の知識	- 動物と環境 - 植物と環境 - 生物の多様性 等
自然災害を未然に防ぐための取り組み	地表や地下の歴史を読み取り将来を予測する能力	- 環境地形学 - 防災地図環境学 - 環境地質学 - 自然災害のメカニズム 等
気象に関するさまざまなデータを処理して現象の予想を行う仕事	さまざまな大気現象について正確な考察ができる能力	- 気候・気象学 - 大気大循環論 - 総観気象学 - 気候変動論 - 都市大気環境 等
水の流れとその水質に関わる診断およびその修復に関わる仕事	地球上の水や物質の動きを循環の視点で捉える能力	- 人間活動と物質循環Ⅰ（大気と水の循環） - 人間活動と物質循環Ⅱ（人間活動と環境汚染） 等
情報通信技術（ICT）を活用した環境に優しい街づくりの立案	コンピュータを利用してさまざまな環境情報を解析できる能力	- プログラミングの基礎 - 画像情報処理の基礎 - 空間情報システム実習 等

取得可能な免許・資格

単位で免許・資格取得

- 中学校（理科）
- 高等学校（理科）
- 高等学校（情報）
- 博物館学芸員
- GIS 学術士
- 測量士補
- 自然再生士補
- 学校図書館司書教諭

試験合格で取得

◆以下については、資格取得に必要な知識を得るために役立つ授業があります。

- 気象予報士
- 公害防止管理者
- 測量士
- 技術士補
- 環境計量士
- 環境管理士
- 防災士
- 鉱物鑑定士
- 環境社会検定（eco 検定）
- 天気検定
- IT パスポート試験
- マイクロソフトオフィス スペシャリスト
- 情報処理技術者 等

くわしいカリキュラムはこちらからご覧いただけます。

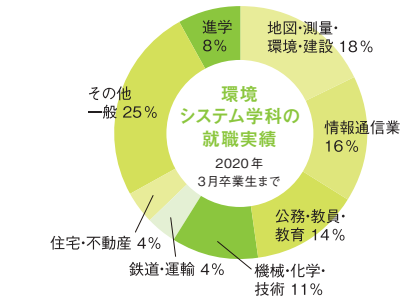
詳しい授業科目はWEBで!!



就職データ

卒業生の主な就職先（過去3年間）

環境意識の向上により、一般企業でも環境問題に精通した人材が求められています。環境コンサルタント等の専門分野への就職だけでなく、その他の業種へ就職して環境関連の部門で活躍している先輩も数多くいます。



地図・測量・環境・建設 ▶ウェザーニューズ、日本気象、バスコ、日さく、計画エンジニアリング、青木あすなる建設、大輝、内藤環境管理、東日本総合計画、日本基礎、日本エルダルト、東興ジオテック、共同エンジニアリング、日本水工設計、土木管理総合試験所、吉澤石灰工業、川崎地質、栃木県環境技術協会、科学技術開発センター、サクセン、東京ソイルリサーチ
情報通信業 ▶エヌ・ティ・ティ・システム開発、トランザクション・メディア・ネットワークス、富士ソフト、エスワイシステム、キュービシステム、NSD、クイックサーブ、トランスコスモス、エクスコア
公務・教員・教育 ▶（独）防災科学研究所、（独）水資源機構、群馬県、栃木県農業大学校、富山県警、警視庁、千葉県警、沖縄県、福島市、前橋市、松戸市、熊谷市、東松山市、調布市、国分寺市、平塚市、上越市、水見市、今治市、松江市、江戸川区
鉄道・運輸 ▶東日本旅客鉄道、東武ステーションサービス、京浜急行電鉄、ANA新千歳空港、ANAエアポートサービス、スタッフライヤー
進学 ▶立正大学大学院、北海道大学大学院、上越教育大学大学院、筑波大学大学院、山梨大学大学院、首都大学東京大学院、公立鳥取環境大学大学院

学部共通の高度な学び

〔GIS 学術士〕

GISとは地理情報科学および地理情報システムを指し、地理空間情報をコンピュータを使用して分析・解析することができます。環境調査やコンビニエンスストア等の出店計画にも役立ちます。

〔測量士補〕

土木工事や地籍調査で行われる測量の実施に必須の測量士の補助を行い、1年間の実務経験で測量士とされる国家資格が測量士補です。関連科目の単位を取得することで卒業後、資格を得られます。

〔先取り履修制度〕

3年次までに優秀な成績を修めており、立正大学大学院地球環境科学研究科へ進学を希望する学生は、4年次に大学院の授業科目を一部先取りして学ぶことができます。

地理学科

P16 ▶

卒業後の将来像	必要な能力	その能力を養うための授業例
旅行企画を考え現地ガイドをする仕事	諸外国の生活や文化に関する幅広い知識や情報を身につける	- 観光地理学 - 観光資源とまちづくり - 海外調査法およびフィールドワーク - アジア・オセアニア地誌 - ヨーロッパ・アフリカ地誌 - 日本地誌 等
鉄道等の交通システムを構築する仕事	交通と地域との関わりを理解を深める	- 交通地理学 - 工業地理学 - 流通地域論 - 日本地誌 - 地理情報システム論および実習 等
人や資本の流れを作り出し、提言する仕事	立地や商圏を調査・分析できる能力	- 都市地理学 - 人口と地域 - 首都圏の環境と生活 - 地域データ分析法 - 地理情報システムの応用および実習 等
都市開発に必要な測量や地図作成を行う仕事	測量や地図を製作・加工できる能力	- 地図と測量の科学 - 測量学および実習 - 地理情報科学の基礎 - 地理情報システム論および実習 - 地図表現と地図作成 - 地図画像処理論および実習 等
地域住民の声を聴き課題を解決する仕事	さまざまな角度から「地域」を見る能力	- 都市のアメニティ - 都市地理学 - 都市と地域の計画 - 地域景観の保全と復原 - 観光資源とまちづくり - 地域の自然誌 等
防災計画の立案や自然環境の保全を行う仕事	自然環境について学び幅広い専門性を身につける	- 地形学 - 自然災害と地域 - 災害・防災地図の作成と利用 - 自然環境とまちづくり - 地域開発と環境問題 - 地域自然情報の活用 等

取得可能な免許・資格

単位で免許・資格取得

- 中学校（社会）
- 高等学校（地理・歴史）
- 博物館学芸員
- GIS 学術士
- 測量士補
- 地域調査士
- 社会教育主事
- 社会福祉主事
- 学校図書館司書教諭
- 図書館司書

試験合格で取得

◆以下については、資格取得に必要な知識を得るために役立つ授業があります。

- 国内旅行業務取扱管理者※
- 総合旅行業務取扱管理者※
- 国内旅程管理主任者（ツアーコンダクター）※
- 地図地理検定※
- 測量士
- 土地家屋調査士
- 不動産鑑定士
- 気象予報士
- 情報処理技術者
- 観光英語検定
- 旅行業英語検定 等

※はエクステンション講座等でバックアップしております。（P17へ）

くわしいカリキュラムはこちらからご覧いただけます。

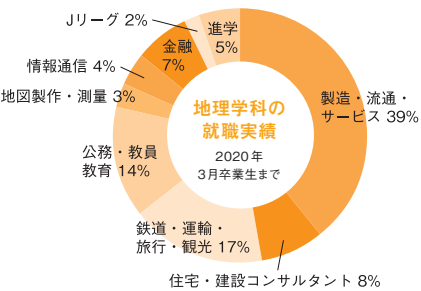
多彩な授業科目一覧はこちら



就職データ

卒業生の主な就職先（過去3年間）

卒業生の多くは地域社会や自然環境に関する専門知識や能力を身につけた人材として社会で評価されており、測量や地図・GISといった専門分野に加えて行政、教育、旅行、運輸等の幅広い分野で活躍しています。



地図製作・測量 ▶ゼンリン、武蔵堂、朝日航洋、アジア航測、バスコ、国際測地、大輝都市・不動産・建設コンサルタント ▶日本都市整備、日さく、川崎地質、日本技術コンサルタント、タマホーム、一条工務店、栃木セキスイハイム、ケイアイスター不動産
鉄道・運輸・旅行・観光 ▶JR 東日本、JR 東海、JR 西日本、東京地下鉄、小田急電鉄、大阪府高速電気軌道、関東鉄道、秩父鉄道、北陸鉄道、日本旅行、近畿日本ツーリスト、東武トップツアーズ、名鉄観光サービス、日本交通
金融 ▶日本郵便、山形銀行、武蔵野銀行、静岡銀行、佐原信用金庫、宮崎都城信用金庫、第一生命保険
製造・流通・サービス ▶ヒゲタ醤油、不二サッシ、日精樹脂工業、セブンイレブン・ジャパン、マックスバリュ関東、博報堂プロダクツ、ディップ、アダストリア、ラコステジャパン、三菱商事ロジスティクス、羽田空港サービス、セコム、農業協同組合（各地）
公務・団体職員・教員・教育 ▶千葉県庁、荒川区役所、秩父市役所、熊谷市役所、入間市役所、伊勢崎市役所、栃木市役所、北上市役所、大町市役所、警視庁、山形県警、東京消防庁、水資源機構
大学院進学 ▶立正大学大学院、Dublin City University、筑波大学大学院、北海道大学大学院

学生研究プロジェクト

〔学生主体の研究活動〕

地球環境科学部では、学年・学科・研究室の垣根を越えた、学生によるグループ研究を応援しています。研究テーマが採択されると、最大20万円まで研究費が助成されます。過去には、人が植物の分布拡大に与える影響の研究や、福島県南会津郡只見町の観光山菜園の運営についての研究、沖縄県鳩間島の海洋生物起源の堆積物の研究等を実施しました。学生の自由な発想力と行動力、仲間と協力して問題の解決に挑戦する力、広く成果を発信する力に期待しています。



Fieldworks

Faculty of Geo-Environmental Science



日本各地や海外で
フィールドワークを体験できます。
その地域に詳しい教員の引率により
現地調査を行ないます。



NIIGATA
地質調査でルートマップを
作っている様子



SAITAMA
荒川河川敷で河床の
調査をしている様子

MIYAKOJIMA, OKINAWA
下地島の海岸における、
津波石の班ごとの簡易測量



SHODOSHIMA, KAGAWA
町役場職員への聞き取り調査



HELSINKI, FINLAND
フィンランド測量局で
地形図を閲覧



UBE, YAMAGUCHI
日本最長の私道「宇部興産専用道路」を走る
セメント原料輸送車両の見学



WASHINGTON State, USA
干し草集出荷場の見学



地理学科

教室で行われる講義だけでは地域の
問題を見えたり、解決したり
することはできません。実際に町
を歩き、自然に触れることで、地
理学的な観察眼を養っていきます。
現地では教員に教えてもらうだけ
でなく個人（グループ）調査も行
うため、人間関係も密接となりま
す。講義で学んだ知識を現地で生
かし、現地で体験したことを知識
に還元することで、理解が一層深
まっています。

ZERMATT, SWITZERLAND
マッターホルンを望む
リッフェル湖での水質調査



NAGANO / Gifu
森林限界（約 2,500m）を超えた
高山帯での生物観察



IBARAKI
アスマン通風乾測計を
用いて気温観測を行っている様子



SHANGHAI, CHINA
豫園周辺の土地利用の調査を
行っている様子



環境システム学科

環境システム学科では、各学年で
必修のフィールドワーク実習が設
けられています。1 年次の「学修
の基礎Ⅱ」は学年全体で、2 年次
の「フィールドワーク」は分野ごと
に、3 年次の「セミナーの基礎」
は研究室ごとにフィールド調査を
行い、学年進行とともに専門
的な調査方法を学びます。これら
の知識・技術は、4 年次に卒業研
究を行う際の基礎力となります。

NAGO, OKINAWA
土地利用調査と分布図作成



HAKODATE, HOKKAIDO
刻まれた災害と
復興の記憶を知る景観観察



NEW CALEDONIA
ウベア島における
ラグーンの観察



NAGANO
中津川にて水質調査を
行っている様子



NAGANO
温泉水の水質調査を
行っている様子



HO CHI MINH, VIETNAM
塩田跡地にマングローブの苗を
植えている様子



2020 年度は十分な感染症対策
をした上で実習を行いました。

環境システム学科

Department of Environment Systems

学びの領域

環境情報学



全ての領域にまたがるのが「環境情報学」です。自然的・社会的要素が複雑に絡み合う環境問題の解決に向けては、広い視野が必要です。SDGsに関連の深い問題は、情報のインフラや情報サービスの普及、環境・情報教育や産業技術の開発をはじめ、天然資源の管理と利用、食品ロス、廃棄物の削減と利用等といった事柄です。その他、環境情報の整理・解析技術を応用して、幅広い問題の解決に貢献します。

環境生物学



「環境生物学」は、動植物や海洋・陸上の自然環境を研究対象とし、ヒトが他の生物や生態系に与える影響を明らかにしながらヒトと生物が共存していく方法を考えます。適切な水産資源の確保や海洋と沿岸の生物の保全、陸域や淡水・山地生態系、持続可能な森林開発や砂漠化対策、絶滅危惧種や在来種と外来種の問題等、SDGsにも直結する研究から、問題解決をめざしていきます。

環境地学



地球の地形・地質の特徴は、火山噴火や地震等の現象、超長時間の過程等、さまざまな要因で形成されています。「環境地学」では、固体地球の特徴が作られた歴史を科学的に紐解いていきます。水害や土砂災害の発生メカニズムや対策といった気候変動にも関わる問題、地熱発電や化石燃料、放射性廃棄物といったエネルギー問題、海洋のゴミ問題や沿岸地形の保全等、SDGsの目標達成にも貢献します。

環境気象学



異常気象、都市や地球の温暖化、大気汚染といった大気に関わる問題は、人びとの生活にも直接的に大きな影響を与えています。「環境気象学」の学びでは、野外での気象観測や実験等に積極的に取り組みながら研究を進めます。SDGsの目標にも関連する、気候変動による地球環境の変化や人体への影響、気候災害とそれに伴う水害への対策や、ヒートアイランド現象と都市、大気汚染や気象災害といった問題にも取り組みます。

環境水文学



「環境水文学」では、世界中のあらゆる“水”を扱います。水の循環や水質、さまざまな特徴をもつ水を観測・分析し、科学的に理解していきます。SDGsとの関連では、安全な水と衛生の確保の観点から、地下水や地表水の利用や水質汚染の問題、持続可能な水利用、淡水域における動植物の絶滅危惧種や外来種等の問題、乾燥地の問題等、自然環境から人の暮らしまで、水に関する多様な問題で貢献する分野です。

学科の特長

地球環境の正確な理解

自然環境の諸要素とそれらの相互関係の理解、幅広い視野と技術を備えた「環境コーディネーター」をめざし、豊富な実験やフィールドワークをとらして学修します。

基礎を固めて発展させる

1年次は基礎科目、2年次は専門科目、3年次はセミナー、4年次は卒業研究と、段階的に専門性を高めるカリキュラムです。4年間で知識や技術を着実に発展させます。

現代自然科学の基本技術 ICT

いまや環境問題の対策にも利用されている ICT (情報通信技術)。先端技術を活用し、リモートセンシング(遠隔調査)や、地理情報システム (GIS) を学修します。

学修サポート



〔Basis〕

ルーム制度

1・2年次は、約10人ずつの「ルーム」に分かれます。各ルームには1名ずつ担任教員がつき、授業や成績等、学業の指導・相談、さらには学生生活に関する相談等、大学生活全般に関する事柄について細やかなサポートを受けることができます。



〔Basis〕

再履修サポート

1年次必修の自然科学の基礎科目は、学科の学びの基礎となる重要な科目です。習熟度の低い学生は再履修によってもう一度講義を受け、しっかりと基礎を固めることができます。これにより2年次から始まる専門科目へもスムーズに移行が可能です。



〔Basis〕

補習授業 (数学・英語)

主に1年生を対象として、基礎的な学力向上のために、任意参加の補習授業を実施しています。科目は数学と英語。高校の数学をあらためて学びたい学生や、海外でのフィールドワークや論文を読むために英語力をつけたい学生にも有益な場です。



〔Expert〕

さまざまな大型機器

水質分析、岩石・土壌の年代測定や含有元素分析、遺伝子解析、上空の風況を高精度で計測できるドップラーライダー等、さまざまな大型機器と、実験施設を備えています。実習や卒業研究で、より高度で実践的な研究のために活用されています。



〔Expert〕

気象予報士試験合格サポート

難易度が高い国家資格の気象予報士。本学科では気象学に関する授業を豊富に開講しています。また、気象予報士問題検討会や、気象予報士講座 (有料) 等も定期的に行う等、資格取得をめざす学生をサポートしています。最近4年間で4名が合格しています。



〔Topics〕環境科学アドバンスト科目

1年次終了時点の成績上位者のみが履修を認められる発展科目です。通常1年間で取得が可能な範囲を超えて単位取得が可能で、3・4年次の授業や課題に一定早く取り組みます。5つの領域ごとに科目が開設

されており、各領域のエキスパートである教員のもと、マンツーマンに近い授業で専門性の高い学修が可能。早期に高度な内容を修得することで、その後の研究活動やキャリア形成に自由度をもたせます。



What's your Carelogy?

〔環境システム学科〕

環境システム学科の学生・卒業生の

学びや仕事、実現したい将来の目標とは？

実現したいSDGs、「私のケアロジー」について

インタビューしました。

Interview
Department of Environment Systems

2年生

私の
ケアロジー

11

フィールドワークで得た
地学の知識と行動力を
身近な問題に還元したい

自然のなかで作られる地層の美しさに惹かれ、地学を学べる環境システム学科を志望。講義では、温泉や各地の言い伝え等の身近な事柄と地学の関連に好奇心を刺激されます。2年次には、3年次科目のセミナーを先取りで履修し、地質調査で地層の立体感や土の感触等、資料では得られない数々の発見に感動。さらに、地圏環境学アドバンストで珍しい黒曜石の分析、ベトナムでマングローブ林の保全、ニュージーランドで4週間の語学研修にも挑戦しました。「大学生ならやってみよう」という意志が、さまざまなことに挑む力となり、行動力が培われたと感じます。今後は、地学の学びを地域の防災対策等、身近な問題に還元する方法を考えたいです。

Profile

環境システム学科 生物・地球コース 2年
埼玉県立不動岡高等学校出身

Interview
Department of Environment Systems

4年生

私の
ケアロジー

8 13

物事を追究する行動力で
空の安全と運航の効率化を提言
航空業界に寄与する

幼いころから夢は航空業界。運航管理に不可欠な気象学を学ぶため進学しました。授業では、気象以外の分野やアドバンスト科目にも積極的に取り組み、多面的な視点や高度な知識を修得。大気物理研究室の卒業研究では、航空機の運航に関わるジェット気流について、膨大な気候データを用いて経月変化と気候の関連を研究しました。学んだ知識を駆使して全力で取り組んだ結果、成果は想定以上に。この研究をとおして、計画性・実行力・思考力と多くの面が鍛えられ、

物事を追究し行動する重要性を学びました。卒業後は航空会社で働きながら研究も続けるつもりです。気象の知識による安全で効率的な運航管理計画をはじめ、情報や地学の知識に基づいたIT・IoT化による作業低減、災害時の航空会社のあり方について考え、行動していきます。

Profile

環境システム学科 気象・水文コース 4年
福岡県私立上智福岡高等学校出身

My growth process

Department of Environment Systems

〔1年次〕地学実験

専門的な実験・実習に取り組み、実践的な学びを得ました。また、気象をはじめ水文・生物・地学・情報の5分野に触れ、多面的な視点も獲得しました。

〔2年次〕環境気象学アドバンスト

成績上位者のみが受講できる少人数授業。教授からはきめ細やかで高度な指導を受け、知識やプレゼンテーション能力が大いに鍛えられました。

〔3年次〕セミナーの基礎

長野県で24時間の気象観測に実際に取り組みながら、気象庁のデータの取得から提供までの過程を学修。正確な観測の難しさを体感しました。

〔4年次〕大気物理学研究室

この学科を志望した動機の一つ、渡来先生のもとで、気象庁等から50万ものデータを取得し、9カ月かけて解析。想定以上の研究結果が出せました。

〔内定先：株式会社スターフライヤー〕

福岡県北九州市を拠点とする航空会社です。「運航の効率化」をめざした一貫性のある学修・研究や、企業や業界へ貢献したいという想いが内定につながったと思います。



環境問題に真摯に向き合い
いまある自然や生物を
後世に残していきたい

大学で環境問題について知見を深めるほどに、いまある自然環境を次世代に残す役割を担いたいと考え、環境コンサルタントになりました。業務内容は、自治体や企業からの依頼に応じて行う、開発事業に伴う環境影響評価や生態系の保全対策等。例えば山野での植生調査や外来カメによる生態系への被害問題、最近では市民と協働で行う環境保全活動の支援にも取り組みました。このように、私の会社は幅広い領域の調査から解

析・保全計画・保全措置の実施まで一貫して携わります。その分、多角的な視点とバランス感覚が必要になりますが、大学時代、自然環境をシステムと捉え、生物や地形、気象等さまざまな学問の基礎を修得したことがいまにつながっています。生物の保全方法等は日々進化している分野。最新の動向を注視し、大学時代に学んだことに加え新しい知識も吸収しながら、自然環境を後世に引き継ぐ活動を実践していきたいです。

Profile

鈴木 匠汰 さん
株式会社ポリテック・エイディディ
環境計画グループ 研究員
環境システム学科 生物・地球コース 2016 年度卒業
埼玉県立小川高等学校出身

My collage days

Department of Environment Systems



3 年次のセミナーでは、八甲田山で湿原調査を実施。現地では、湿原の成り立ちや湿原の植物についてのレクチャーを受けた後、ベルト状に等間隔に調査区を設置し、ライントランセクト法の植生調査を行った。



水のエンジニアとして
当事者目線で向き合い
接続可能な社会の発展に貢献する

在学時に卒業研究として、流域物質循環研究室で人間活動と河川水の関連を調査・分析した後、現在の会社に就職しました。業務内容は、全国の水インフラから届くサンプルの水質を評価し、薬品を用いた水処理提案を行う、いわば“水のエンジニア”。現場に赴いて試験から提案まで一連の作業を行う機会が多いため、在学中の地道なフィールドワークで培った忍耐力と、当事者である近隣住民へ

のヒアリングで身につけた積極性が生きていていると感じます。また卒業研究で知った“当事者”との対話の重要性は、いまこそ強く実感しています。この仕事は研究だけではなく、お客様が納得する課題解決がゴール。当事者目線で向き合っていくことに、自身や企業の成長があると感じています。今後も業務の遂行をととして、人間活動に関連深い水質をテーマに、社会に貢献していきます。

Profile

間中 友紀子 さん
水 ing 株式会社
薬品事業本部 薬品技術・コスト統括 薬品技術センター 薬品技術三課
環境システム学科 気象・水文コース 2015 年度卒業
鹿児島県私立屋久島おおぞら高等学校出身

My collage days

Department of Environment Systems



2 年次に学外フィールドワークで富山県東部の黒部川扇状地で水文調査を実施した際の、宿の前でフィールドワーク参加メンバーとの集合写真。

Focus on 研究室

環境システム学科では、世界規模の大きな課題にも挑める専門性の修得をめざしています。

研究室では、まず身近な自然環境に積極的に触れてその本質をしっかりと理解し、

専門家に必要な行動力と技術力を磨きます。

大気環境モデリング 研究室

鈴木パーカー 明日香 専任講師

Modeling for better understanding of climate system and human health

昨今の世界においては、人為的地球温暖化に伴う気候変動の影響評価と、温暖化に対する緩和・適応策の策定・実行が急がれています。気候変動による影響は広範囲に渡りますが、この研究室では、「一般市民が感じる身近な気象現象」と「人間の健康」にフォーカスして研究しています。具体的には、気候モデルを用いたシミュレーション研究や、既存観測データを用いた解析等を通じて、台風やフェーン等の身近な気象現象が長期的な気候変動とどのような関係があるのか、そのメカニズムは何なのかを明らかにする研究を行っています。また、身近な気象現象、ひいては長期的な気候変動が、人の健康にどのような影響を与えるのか調査しています。



森林生態学 研究室

須田 知樹 教授

生態系保全の提言を 行動して考える

現在、世界では1分間に東京ドーム2個分の面積の森林が消失しています。そして、森林の保護が1日遅れると、74種の生物が絶滅すると言われています。今日行った研究は、明日の森林保護に役に立たないかもしれません。もはや生態系保全の分野においては、目的を達成するために研究するのではなく、その方法で目的に到達できるかを検証するものとなっています。この研究室では、陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進のために、日本における生態系保全の理論と実際を手で学び、脚で見て、肌で感じて、その後に目的到達のための提言を頭で考えています。行動することを身につけた卒業生は、生態系保全の分野以外でも活躍しています。



環境管理情報学 研究室

後藤 真太郎 教授

環境データ

サイエンスで

農業を活性化する

環境問題の解析は、病院のレントゲンと検査で病巣と病名を特定するプロセスと似ています。まず、人工衛星や航空機からの画像や現地の観測データからジョインフォマチックス技術で情報を取り出して観測し、データサイエンスを用いて解析。数値モデル等で環境問題との関係をさらに解析・評価します。この研究室では、このようなプロセスをさまざまな環境問題に適用しています。例えば、1500年前から熊谷周辺で営まれている農業文化「谷津沼農業」の日本・世界遺産登録をめざす事業が産学官民連携で進められ、広域にわたる風土と人びとの共創関係の可視化、ドローン等を用いたスマート農業の導入、6次産業化等による経済循環の創出支援を行っています。

環境システム学科の研究室

Labs at the Department of Environment Systems

○は担当教員の研究テーマ

●は所属学生・院生の研究テーマ

生物圏環境変遷学研究室 11 15

米林 伸 教授

過去における植物群落の空間配置の復元、 植物群落と環境の歴史の変遷

- 〔学びのキーワード〕
- ▶自然環境保全 ▶絶滅危惧植物 ▶外来植物対策
- 〔主な研究テーマ〕
- 植物群落と環境の歴史の変遷の復元
 - 火入れ管理による草原性希少植物の保全
 - 侵略的外来植物の分布と生育環境

環境年代学研究室 11 13

下岡 順直 准教授

熱ルミネッセンス・光ルミネッセンス法による

表層環境変化に関する年代測定

- 〔学びのキーワード〕
- ▶古文化財科学 ▶第四紀環境 ▶放射線計測
- 〔主な研究テーマ〕
- 年代測定と被熱温度推定
 - 環境教育に関する教材開発
 - ルミネッセンス年代測定

大気環境モデリング研究室 3 13

鈴木パーカー 明日香 講師

Modeling for better understanding of climate system and human health

- 〔学びのキーワード〕
- ▶気象学 ▶数値モデル ▶気候変動
- 〔主な研究テーマ〕
- 温暖化と都市化に伴う暑熱環境の将来予測
 - 台風接近に伴う気温上昇とその健康影響
 - 地表面状態と短時間強雨に関するモデル研究

水文環境学研究室 3 4 15

李 盛源 准教授

地下水に含まれる

硝酸性窒素の挙動と浄化

- 〔学びのキーワード〕
- ▶地下水汚染 ▶浄化対策 ▶安定同位体
- 〔主な研究テーマ〕
- 水文環境汚染プロセスの解明およびその浄化対策
 - 安定同位体比を用いた生態系構造解析
 - 新潟県胎内川現状および胎内砂丘地における地下水の水質特性について

生物システム情報学研究室 2 12 15

横山 和成 特任教授

生物の情報解析技術を用いた 世界の持続的発展に活用

- 〔学びのキーワード〕
- ▶生物多様性 ▶統計物理学 ▶複雑系科学
- 〔主な研究テーマ〕
- 土壌微生物多様性による農地の生命力可視化
 - 土の生命力活用農業の健康増進と地域振興力
 - 環境保全型農業の付加価値化と食料安全保障

生物多様性・進化生態学研究室 6 14 15

関根 一希 助教

カゲロウ類の単為生殖の 進化学的意義

- 〔学びのキーワード〕
- ▶進化化学 ▶生態学 ▶分子系統学
- 〔主な研究テーマ〕
- 地理的単為生殖昆虫の進化生態学的研究
 - 水生昆虫類における分子系統地理学研究
 - 節足動物類の多様化と進化生態学的研究

第四紀環境変動研究室 13 14

平林 頌子 助教

炭酸塩試料を用いた古気候復元、

放射性核種をトレーサーとした海洋変動復元

- 〔学びのキーワード〕
- ▶地球化学 ▶年代測定 ▶古気候復元
- 〔主な研究テーマ〕
- サンゴ骨格を用いた完新世黒潮変動復元
 - 海水中の放射性核種分析による海洋循環復元

モンスーン研究室 11 13

神澤 望 助教

陸と海が生み出す

季節的な大気循環と降水

- 〔学びのキーワード〕
- ▶アジアモンスーン ▶気候変動 ▶気候シミュレーション
- 〔主な研究テーマ〕
- 夏季アジアモンスーン降水量の将来変化
 - 熱帯の対流活動が日本の気候に与える影響

水圏環境分析化学研究室 6 14 15

向高 新 助教

化学分析による

物質循環解析

- 〔学びのキーワード〕
- ▶マイクロプラスチック ▶安定同位体比 ▶窒素循環
- 〔主な研究テーマ〕
- 大気・植物間の窒素循環を定量的に理解する
 - 水圏環境中マイクロプラスチックの分析
 - 安定同位体比計測法などの分析法の開発

環境情報処理研究室 4 9 13

青木 和昭 講師

機械学習を用いた

環境情報の分析

- 〔学びのキーワード〕
- ▶機械学習 ▶パターン認識 ▶ICT教育
- 〔主な研究テーマ〕
- 決定木を用いた大規模データ分析手法の開発
 - 機械学習を用いた防災システムに関する研究
 - ICT教育環境の構築・運用と情報教育の研究

環境生態学研究室 12 14

岩崎 望 教授

プランクトン、ベントスなどの

生態と生息環境の研究

- 〔学びのキーワード〕
- ▶海洋生物 ▶海洋生態系 ▶食物連鎖
- 〔主な研究テーマ〕
- 寶石サンゴの持続的利用に関する研究
 - 底生性カイアシ類の分類と生態学的研究
 - 水域におけるマイクロプラスチックの挙動に関する研究

環境岩石学研究室 15

川野 良信 教授

岩石・鉱物の化学組成から

地球環境を考える

- 〔学びのキーワード〕
- ▶岩石鉱物 ▶化学分析 ▶環境汚染
- 〔主な研究テーマ〕
- 北部フィッスマグナ分布する花崗岩類の造山学的研究
 - 秩父地塊盆地中新統層下部に見られるアルコース質砂岩の起源
 - 渡良瀬川底質にみる汚染土壌層崩壊による影響

物理気候学研究室 6 13

増田 耕一 教授

エネルギー保存と

水の質量保存から気候をとらえる

- 〔学びのキーワード〕
- ▶気候システム ▶地表面熱収支 ▶時空間情報
- 〔主な研究テーマ〕
- グローバル大気エネルギーと水の循環
 - 大陸規模河川流域のエネルギーと水の循環
 - 先近代・近代の日本の年々の天候とその人間社会への影響

環境地下水学研究室 6 14 15

河野 忠 教授

環境の変化に伴う水資源と

水利用変化の解明

- 〔学びのキーワード〕
- ▶水質と水利用 ▶水と自然災害 ▶古水文環境
- 〔主な研究テーマ〕
- 「名所図会」を用いた古文環境の復元
 - 離島で生活を得るために用いられた「シデ様雨水集水法」の有効性
 - 日本三大茶葉産地におけるお茶と水質との関係

環境管理情報学研究室 3 12 17

後藤 真太郎 教授

環境のデータサイエンスを

学ぼう

- 〔学びのキーワード〕
- ▶GIS ▶リモートセンシング ▶プログラミング
- 〔主な研究テーマ〕
- 農業遺産登録申請を目指した風土共創によるSDGsイニシャティブ
 - 水耕栽培におけるドローン・GISによる管理手法に関する研究
 - LIDARの点群データによる森林観測

環境情報ネットワーク学研究室 9 11

松本 倫子 助教

環境や社会の

ネットワーク分析

- 〔学びのキーワード〕
- ▶ネットワーク ▶プログラミング ▶知的エージェンツ
- 〔主な研究テーマ〕
- 相互依存ネットワークの分析
 - ネットワークの動的最適化
 - 知的エージェンツによる画像輪郭抽出

森林生態学研究室 15

須田 知樹 教授

キーストーン種ニホンジカに

対する日本の森林生態系の反応

- 〔学びのキーワード〕
- ▶動物生態学 ▶保全生物学 ▶野生動物管理
- 〔主な研究テーマ〕
- 野生動物の分布拡大と人間との共存
 - ヤマコウモリの季節的移動様式の解明
 - 外来生物は本当に悪者なのか？

地形地質環境研究室 7 13 14

北沢 俊幸 准教授

河川～浅海における地形・地層の

形成プロセスと土砂移動

- 〔学びのキーワード〕
- ▶地形 ▶地層 ▶侵食運搬堆積
- 〔主な研究テーマ〕
- 河口や干潟の堆積環境
 - 横ずれ断層による河川地形の変化過程
 - 河床におけるボットホルの形成条件

大気物理学研究室 11 13

渡来 靖 教授

局地気象のシミュレーション研究、

全球・総観規模の気象

- 〔学びのキーワード〕
- ▶大気循環 ▶気候学 ▶局地気象
- 〔主な研究テーマ〕
- 対流圏ジェット気流の長期傾向
 - 秩父盆地における雲海の特徴と発生機構
 - 日本における竜巻発生環境場の特徴

流域物質循環研究室 6 9 15

安原 正也 教授

水質と環境同位体をトレーサーとして用いた

河川水・地下水などの動きの解明

- 〔学びのキーワード〕
- ▶人間と水環境 ▶水・岩石反応 ▶水・物質循環
- 〔主な研究テーマ〕
- 浅層地下水系への深部起源流体の混入・拡散プロセス
 - 東京都品川区の浅層地下水の水質形成プロセス
 - 長野県上田市の酸性河川水と扇状地の地下水の交流

環境情報データ処理基盤研究室 9 11

吉田 紀彦 教授

環境やITの

知的データ処理基盤

- 〔学びのキーワード〕
- ▶センシング+IoT ▶分散AI ▶次世代インターネット
- 〔主な研究テーマ〕
- センサネットワークの高度活用
 - アンサンブル学習に基づく分散AI
 - レジリエントなインターネット

地理学科

Department of Geography

学びの領域

人文地理学



人口や経済、都市構造、交通、観光等の要素をとおして、人が与えられた自然条件にいかに対応し、また一方でその恩恵を受けながら、どのように活動しているかに注目します。人間活動の効率性を追求しつつも、同時に社会の安定と平和のあり方を考えていきます。また、現代社会が抱える諸問題を理解し、その解決のために人びとがどのような役割を果たしていくべきかを考えることも、この学問分野で取り組むべき使命です。SDGsとの関連では、持続可能な社会の構築、人びとが安心して生活できるための地域づくりの実現のため、質の高い学びをとおして、課題解決への貢献をめざします。

地図・GIS・測量



地図のしくみや地図表現の基本、地表に存在するものの位置や形を正確に計測する測量技法、自らが現地調査で取得したデータを地理情報システム (GIS) に取り込み地図化する方法を、実践的に学んでいきます。地理学の学修において、事象を空間的に整理し、計測・表現することは、問題の分析や共有化に欠かせない技術であり、自然環境や人間活動のさまざまな問題点を顕在化させます。このような技能によって、人びとの生活や福祉の状態を正しく把握することは、平和な社会の構築につながります。また、地図や測量技術をベースにした地理的思考は、グローバル・パートナーシップを大きく活性化させます。

自然地理学



地形学、気候学、水文学を軸に、地球上のあらゆる自然現象を扱い、それらの相互作用についても研究します。例えば、「河川水量の変化」については、気象災害や地下水の変化、農業や生活様式等、人間活動に対する影響といった多角的な視点や、1年間だけでなく100年～10万年という長期間のなかで気候変動を考えることが重要です。その一方で、気候変動にともなう植生の変化が河川水量へどのように影響するか、といった反対方向の作用についても考えます。幅広い視野から、水と衛生、気候変動、陸域生態系や森林の問題等を中心に、SDGsの多岐にわたるゴールにアプローチしていける分野です。

学科の特長

人文社会系と自然系が融合

分野の第一線で活躍する教員のサポートのもと、まちづくりや都市、環境、農業、自然保護や環境問題といった幅広い分野から「本当にやりたいこと」を選び、追究できます。

バラエティ豊かなフィールドワーク

「海外フィールドワーク」をはじめ、学年毎に多彩な調査地を訪れる「地理基礎巡検」、まちづくりや自然保護に取り組む3年次の「地理学セミナー」等、豊富な機会を設けています。

1万人以上のOB・OGを輩出する伝統

1947年に文学部地理学科としてスタートした本学科は、発展的に改組しながら歴史を刻んできました。貴重な図書・地図資料を所蔵し、各界に多数の優秀な人材を輩出しています。

学修サポート



[Basis]

エクステンション講座

おもに、高校で「地理」を選択していない学生のための専門講座で、専任教員と学科の上級生から授業の内容や課題についてのサポートが得られます。また、上級生は指導にあたることで、相手に説明する力や自身の理解度の向上につながるため、双方に有益な学びの場となっています。



[Basis]

細やかな指導が可能なクラス制

地理学科の1年次、2年次の主な必修授業では、5クラスに分かれたクラス制を採用し、少人数で授業を行っています。全学年に担任がいるため、学修面できめ細かい指導を受けられることはもちろん、生活面や就職活動等についても、相談したり助言をもらったりすることができます。



[Basis]

自由度の高い選択科目制

卒業に必要な126単位*のうち、20単位以上を自由に選ぶことができます。研究の完成度向上のために専門性を深めたり、視野を広げるために別の分野を選択する等、目的にあわせて柔軟に授業を選択できます。
*専門科目68単位以上、教養科目28単位以上、学部共通科目を10単位以上。



[Expert]

スキルアップ講座

研究の深化や、プレゼンテーションの質の向上のために、スキルアップをめざします。講座では、おもにパソコンのソフトウェア・イラストレーターを用いた作図法、統計処理ソフトSPSSを用いた統計処理を修得。専門性の高い技術は、就職活動や将来にも役立ちます。



[Expert]

旅行業務取扱管理者資格対策講座

旅行代理店等で旅行プラン作成、旅行責任管理者を担うための国家資格です。専門家によって熊谷キャンパスで開講される講座で、毎年全国平均を上回る合格者が出ています。地理学科合格率(2020年度)
国内旅行…52.9%(全国平均36.1%)
総合旅行…44.4%(全国平均18.5%)



[Topics] 地域連携・地域貢献プロジェクト

地理学科では、希望学生が教員とともに地域連携や地域貢献に取り組むプロジェクトを実施しています。過去には、熊谷や日光の地域活性化や防災対策、ネパール地震で被災した学校に世界地図を贈る活動等

を行いました。また、取り組んだ成果をまとめたパンフレットも作成。これらをとおして企画立案力、やり遂げる力、自分の意見を発信する力等、社会で活躍するために必要な能力を身につけることができます。



What's your Carelogy?

〔地理学科〕

多様な分野を学ぶ地理学科では
問題に対して、どのような解決がめざせるのか。
自分の学びや仕事、取り組みたいSDGsについて
学生と卒業生に聞きました。

Interview
Department of Geography

2年生

私の
ケアロジー

6 11 12

自然地理学を追究し
日本や世界が抱える
自然災害や防災対策に
積極的に取り組みたい

東日本大震災をきっかけに、世界の自然災害と防災を学びたいと地理学科に進学。授業はグループワークが多く、仲間との意見交換をととして主体的な学修姿勢と広い視野を得られます。2年次には、ニューカレドニアでの炭鉱開発と生活文化を調査する海外フィールドワークに参加。地元の人びとから生きた情報を得られたことは貴重な経験でした。今後は、自然地理学と防災について専門的に研究していく予定です。そこで培った知見をもとに、持続可能な社会の実現に重要と考える、世界の水供給率の平等化や災害対策、食品をはじめ多様な資源の循環利用等に貢献できればと考えています。

Profile

地理学科 2年
新潟県立新潟江南高等学校出身

Interview
Department of Geography

4年生

私の
ケアロジー

11

人や環境にやさしい
地域交通システムを構築する
これが将来のミッション

地理学では、地形、地質といった自然的要素から、観光、交通、都市、文化といった人文的要素まで幅広く扱います。複雑に絡み合う物事を解きほぐしていくことに、面白さを感じています。入学当初は自然災害に興味がありましたが、基礎を学ぶうちに観光の分野に惹かれるようになり、人口地理学研究室で観光化が進む地元金沢市における景観づくりについて調査しました。研究活動では物事を多面的に見る力や、自ら情報を収集すると

いった、フィールドワークの経験も役立ち、納得のいく成果を出すことができました。卒業後は地元の公共交通機関に就職します。在学時に修得した分析力と実行力を発揮し、「住み続けられるまちづくり」の観点から、人や環境にやさしい公共交通システムを提案できる人材に成長したいです。

Profile

地理学科 4年
石川県立金沢西高等学校出身

My growth process

Department of Geography

〔1年次〕基礎地図学および実習

地域の分析に欠かせない地図の読み方、分布図の描き方等の基本的スキルを修得。地理学の入門的な授業ですが、卒業研究には欠かせないものでした。

〔2年次〕フィールドワーク

三宅島を訪れ、火山地形や島民の防災意識について調査をしました。写真や映像ではわからないことも、自分の目で見て確認することで、理解が深まりました。

〔3年次〕海外フィールドワーク

中国の北京市とハルビン市にて実施。街がきれいでキャッシュレス化が進んでいる現代的な中国のいまを目の当たりにし、体験することの重要性を再認識しました。

〔4年次〕人口地理学研究室

卒業研究の進捗を定期的に発表する場では、仲間から自分では気づけなかった指摘を受けながら、多角的な分析ができました。またプレゼンテーションの技術も上達しました。

〔内定先：北陸鉄道株式会社〕

石川県内の鉄道や路線バス、観光バス、高速バスの運行を行っている会社です。地理学で培った「地域を分析する力」を生かして、業務上の問題を調査し、改善策を提案したいとアピールしたことが内定につながったと思います。

私の
ケアロジー

11 13

「県のコンサルタント」として
激甚化する自然災害から
地域の農業と人びとを守る

高校生の時から、目標は地元の災害・防災分野への貢献。現在は栃木県庁の総合土木（農業土木）職として公共工事の事業計画策定に従事し、農地や農業用水利施設、防災減災施設の整備等を行っています。工事の立案に際しては、大学時代に水文地形研究室で学んだ地理学の研究手法や水文の知識を用いて調査し、問題の把握・解決に努めています。また事業に関わる分野や立場が違う人との円滑な意見交換や的確な提案に

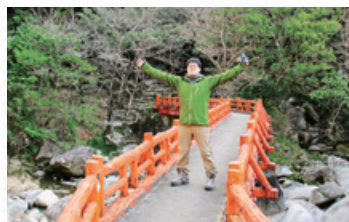
は、河川や人口等、専門外の学修で得た幅広い知識が生きています。いまの技術者としての目標は、「過疎化による地域の活力低減」「自然災害による被害」等の問題の解決への糸口を見つけ出し、安心安全な農作物を普及させること。そのために取り組みたいのはレジリエント（強靱）な地域づくりです。“県のコンサルタント”として、今後も農家の方々の暮らしを守り、防災に貢献できる事業を実現していきます。

Profile

岡部 将大 さん
栃木県農政部農地整備課 調査計画担当 技師
地理学科 2014 年度卒業
大学院 地理空間システム学専攻 2016 年度修了
栃木県私立文星芸術大学附属高等学校出身

My collage days

Department of Geography



大学院修士1年次には、紀伊半島の奇絶峡をフィールドワーク。起伏が大きく、谷底には直径10mを超える巨礫が積み重なるように堆積する現場にて、侵食抵抗性の違いによる「ひき岩群」や、岩盤を水流が侵食した「満の坪」等の地形を調査。

私の
ケアロジー

5 8 16

お客様に最高の旅をとどけるため
誰もが働きやすい社会をめざし
根気強く提言

旅行業界へ進んだきっかけは、世界の自然遺産への興味から国家資格である旅行業務取扱管理者の「国内」と、難易度の高い「総合」に合格したことです。現在は、資格講座や自然地理学研究室で身につけた知識をもとに、店舗でお客様へ旅行の販売を行っています。在学時にフィールドワークをとおして物怖じせず人と接し、物事を根気強く追求する姿勢を身につけました。いまの目標は、柔道部で鍛えた

負けず嫌いの精神を生かし、店舗の売上トップになること。今後はクルーズ旅行について新たに学び、販売担当と情報共有しながらよりよい商品開発に挑戦したいと考えています。そんな現在、関心が高まっているのが「性別」や「労働」に関わる問題。誰もが働きやすい会社からお客様へ最高の旅を提供するために、固定観念にとらわれず、業務や職場をより良くする意見を、積極的に発信していきたいと思っています。

Profile

佐藤 志乃 さん
株式会社エイチ・アイ・エス
地理学科 2016 年度卒業
岩手県立不來方高等学校出身

My collage days

Department of Geography



在学中に地域自然誌科目群の授業「自然計測実習」内で実施した、野外での植物観察フィールドワークの様子。熊谷キャンパス内の樹木の樹形や樹皮、葉の特徴を観察し、植物分類を特定する「同定」を行った。

Focus on

研究室

幅広い分野を取り扱う地理学科は、研究室も個性豊かです。
いずれも積極的なフィールドワークで人びとの暮らしや自然の営みを観察・分析しながら、
他と協力して大きな問題に取り組み、提言できる人間力の向上をめざしています。

文化地理学 研究室

山下 清海 教授

多様化社会を直視し
新たな発想で分析する

チャイナタウンやコリアタウンのように、さまざまな国の出身者や固有の文化をもつ人びとが、日本および世界各地で多様な社会を形成しています。この研究室では、こうした現状を直視し、多様化が進む社会を人文地理学的に探究しています。セミナーでは、横浜や大阪、海外では北京やハルビンのチャイナタウンに赴く等、フィールドワークを重視。さらに、文献の収集・熟読、データの地図化等のデスクワーク、プレゼンテーション、コミュニケーションの能力を鍛えています。多様な情報の収集と地域のさまざまな問題への関心によって、将来、自分の興味・関心を生かした卒業研究のテーマ設定ができる「企画力」の修得をめざしています。



地理空間表現 研究室

鈴木 厚志 教授

地図化をとおして
公正な社会を実現する



私たちの周囲にある建物や植物を表現するには、まずそれらの数を把握して、表やグラフにする作業が必要です。しかし、それだけでは地理的な考察は十分とはいえません。地理学は、地図による表現を古くから大切にしてきました。地図化すると、分布やその状態の変化、ほかの現象との関係がよくわかり、新たな発見につながります。この研究室では「地域調査と地図表現」をテーマとし、フィールドワークで獲得した情報の地図表現と分析に力を注いでいます。表現には、地理情報システム（GIS）を積極的に活用します。最近の卒業研究では、土地利用、交通問題、消費行動、自然災害等からみた、地域の分析と評価に関する研究が多く行われています。



水文地形 研究室

小松 陽介 教授

自然の本質を理解し
大きな課題に挑戦する

日本の山は、険しい山や穏やかな山という形状だけでなく、地域によって植生や土壌、水流の有無等も異なります。このような違いが生じる原因の一つに地質や地質構造があげられ、土砂災害や土地利用等、人間生活に影響することもあります。野外調査は危険なこともあります。豊かな自然のなかで自分が生かされていることを強く実感できます。近年は防災に関連する就職先を希望する学生も多いですが、いきなり発展課題としての自然災害を研究するのではなく、まずは身近にある自然との対話をおとして、自然の本質を理解するトレーニングが必要です。教員、学生同士がともに助け合い、議論をしながら人間的な成長をめざしています。



地理学科の研究室

Labs at the Department of Geography

- は担当教員の研究テーマ
- は所属学生・院生の研究テーマ

応用都市地理研究室

8 9 11

伊藤 徹哉 教授

都市地域の形態的・社会的・
経済的変化の解明

- 〔学びのキーワード〕
- ▶都市変容 ▶都市再開発 ▶都市政策
- 〔主な研究テーマ〕
- 多角的競争下での持続可能な都市空間再編
- 大型商業施設進出後の周辺商業地の変化
- コンパクトシティ政策による都市構造の変化

歴史地理研究室

11 12

岡村 治 教授

都市—
村落関係論

- 〔学びのキーワード〕
- ▶景観変遷 ▶地域変化 ▶都市村落関係
- 〔主な研究テーマ〕
- 定期市・ムラとマチ、マチとマチを繋ぐネットワーク
- 地域密着型スポーツクラブの社会連携とその動向
- 三国街道金古宿における交通機能の変遷と景観変化

水文地形研究室

6 13 15

小松 陽介 教授

山地の地質と
地形・風化・水の関係

- 〔学びのキーワード〕
- ▶地形プロセス ▶降雨流出過程 ▶災害科学
- 〔主な研究テーマ〕
- 山地・丘陵地における河川水系網の発達
- 湿潤地域の山体地下水と降雨流出過程
- 新潟県十日町市における表掘り隧道マップに関する研究

自然・環境地理研究室

1 11 15

島津 弘 教授

自然の探求、
自然景観形成過程の解明

- 〔学びのキーワード〕
- ▶自然環境 ▶自然災害 ▶自然誌
- 〔主な研究テーマ〕
- 山地河川の土砂移動と河川環境の形成
- 関東・東北豪雨による土石流流下と河床形状の関係
- 伊達盆地における地形分析による内水氾濫予測

地域博物館研究室

4 11 17

阿由葉 司 特任教授

転換期の地域博物館の
諸問題

- 〔学びのキーワード〕
- ▶地域資源 ▶歴史と自然 ▶博物館
- 〔主な研究テーマ〕
- 戦後日本における地域博物館論の系譜について

水・環境情報地図研究室

6 11 13

原 美登里 准教授

地域の水環境と
人・まちとの関わりの探求

- 〔学びのキーワード〕
- ▶水環境 ▶まちづくり ▶地域連携
- 〔主な研究テーマ〕
- 湧水・井戸・水路などの身近な水環境の保全
- スイスにおける給水形態
- 岐阜県郡上市八幡町における水環境

漁業地域研究室

14

横山 貴史 特任講師

小規模漁業の
存続形態と持続性

- 〔学びのキーワード〕
- ▶海洋資源の利用と管理 ▶津波災害と復興 ▶フィールドワーク
- 〔主な研究テーマ〕
- 日本の沿岸漁業・養殖業の地域的展開
- 津波災害からの漁村の復興過程
- チリ共和国における小規模漁業と先住民

河川・海浜環境研究室

11 14 15

宇津川 喬子 助教

河川と海浜を知るための
砂・礫との“対話”

- 〔学びのキーワード〕
- ▶砂と礫 ▶海岸砂丘 ▶土石流
- 〔主な研究テーマ〕
- 河川～海浜の砂礫の生産～運搬過程の解明
- 海岸砂丘の内部構造と形成過程
- 大規模土石流のメカニズムと社会への影響

英語圏・国際開発研究室

1 8 10

貝沼 恵美 教授

アジアの経済成長に伴う
空間構造の変化

- 〔学びのキーワード〕
- ▶異文化理解 ▶地域開発 ▶地域研究
- 〔主な研究テーマ〕
- 開発途上国における持続可能な発展
- フィリピンにおける頭脳流出問題と労働力移動
- 千葉県一宮町のサーフィンによる地域活性化と課題

比較都市地理研究室

11

片柳 勉 教授

地域資源を活かした
まちづくり

- 〔学びのキーワード〕
- ▶まちづくり ▶地域活性化 ▶地域連携
- 〔主な研究テーマ〕
- 景観まちづくりにみる地域の記憶
- 花を活かしたまちづくりの展開と課題
- リノベーションによる空き家・空き店舗活用

地理空間表現研究室

3 10 11

鈴木 厚志 教授

Mapping for
Human Welfare

- 〔学びのキーワード〕
- ▶地図化 ▶GIS ▶地理空間情報
- 〔主な研究テーマ〕
- アメリカ合衆国と日本における地理地図学の展開
- 宮古・八重山諸島におけるマラリア有病地の空間表現
- 川崎市における道路交通問題の分析と評価

文化地理学研究室

4 10 11

山下 清海 教授

日本および世界の
多様な社会・文化の探究

- 〔学びのキーワード〕
- ▶フィールドワーク ▶生活様式 ▶エスニック
- 〔主な研究テーマ〕
- 多様化する日本社会の人文地理学的考察
- 地域活性化におけるエスニック資源の活用
- 武蔵浦和駅周辺地区の再開発事業における土地利用変化

交通地理研究室

9 11

山田 淳一 講師

交通地理学の応用と
地域連携の実践

- 〔学びのキーワード〕
- ▶交通地理学 ▶港湾地域研究 ▶地域連携
- 〔主な研究テーマ〕
- 港湾の変容と地域社会との関係
- 若江線沿線住民と利用者の路線認識と評価
- 秩父鉄道における観光化の展開と主体間関係

都市・文化地理学研究室

10 11 16

金 延景 助教

エスニック集団とホスト社会をめぐる
多文化共生の真相

- 〔学びのキーワード〕
- ▶エスニシティ ▶外国人労働者 ▶多文化共生
- 〔主な研究テーマ〕
- エスニックタウンの形成・変容メカニズム
- グローバル都市における多文化接触領域
- 外国高度人材の国際移動と定住プロセス

